

とがち農機具歴史館

Tokachi Museum of Farm Machinery and Implements

農機具百年の歴史を、
後世に伝えたい。

交通のご案内



ご利用案内

- 開館時間 9:00 ~ 17:00 [5月~11月]
- 休館日 毎週月曜日 [月曜日が祝日のときは翌日]
- 入場料 無料



とがち農機具歴史館

Tokachi Museum of Farm Machinery and Implements

〒089-1182 北海道帯広市川西町基線61番地

お問い合わせ

帯広市農業技術センター内(帯広市農政部農政課)
TEL 0155-59-2323 ●● FAX 0155-59-2448

語り継ぎたい、 農機具の発展と苦難の歴史。

明治16年、依田勉三を中心とした「晩成社」による帯広入植以後、戦争による農作物の高騰、世界恐慌による価格の大暴落や異常気象による被害など、たび重なる苦難を乗り越えて十勝の農業は急速に発展してきました。

開拓初期の農機具と言えば、鍬や鎌などの人力農業が主流で、明治30年頃になると森林や広い荒地などの開拓が馬の導入により大きく前進しました。これとともに土を起こすプラウなどの畜力農具も普及し、十勝独自の新しい農機具の考案化も大きく進み始めたのです。そして昭和30年代になるとトラクター化が進み、大型機械化農業へと発展していきました。

目まぐるしい変遷の中で効率的な農作業の開発に努力し、農業転換期を幾度も繰り返してきた歴史があるからこそ、今日の十勝農業の姿があることを語り継いでいかなければならないのです。





●JD 1020

**個性的なトラクターたちに
ビックリ!!**

大正から昭和にかけて活躍した畜力用プラウ、カルチペータをはじめ、迫力満点のトラクターや、ユニークな表情を見せるトラクターまで、個性的な作物別農機具がたくさん展示されています。



●方形八口ー



●畜力用プラウ



●石油発動機



●FORD 3000

ほこの
体の中も
見れよ!!



●カルチペータ



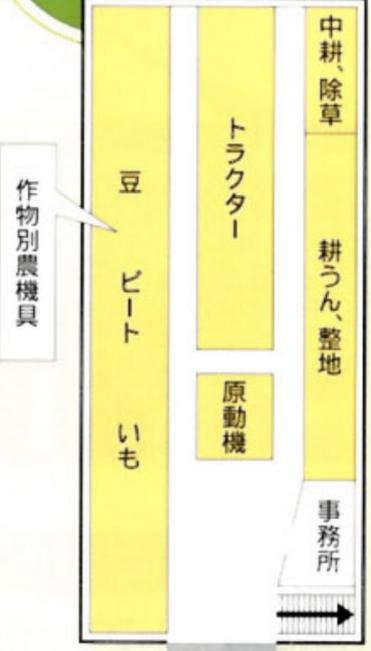
●畜力噴霧機

不思議な形。
どうやって
使うんだらう?



●畜力施肥機

**新館
《1階》**



●鍬、鎌、かに爪など

色々な種類が
あふんだね。



●縄ない機



**新館
《2階》**

昔の農作業がとても力のある重労働だったことが想像出来ます。その他にも、当時の生活には欠かせなかった道具なども展示されています。

**昔の人の生活道具が
いっぱい!!**

■館内平面図■

駐車場へ→

旧館

**昔の人たちは
工夫して
いたんだね。**

収穫した穀物を脱穀した後、初穀などを風によって選別する農具唐箕をはじめ、肥料を散布するための畜力施肥機など、昔の人たちは工夫しながら効率の良い農作業を研究していたんだね。



●足踏脱穀機



●手押播種機



●唐箕